

P-5

数種漢方薬のワーファリンの抗凝固作用に及ぼす影響についての検討

株式会社ツムラ 中央研究所

○疋田典子、富樫裕二、八田 明、竹田茂文、遠藤 徹、岡田 稔

【目的】ワーファリンは心筋梗塞，末梢血管閉塞，脳塞栓症，脳血栓症などの血栓塞栓性疾患に広く用いられる経口抗凝固薬である。これは多くの薬剤と相互作用を起こし，時として重篤な副作用を生じることがあるので，他剤と併用する場合には血液凝固能の変動に十分注意しなければならない。漢方薬とワーファリンとの相互作用は黄連解毒湯について報告されているのみである。

今回，葛根湯，小柴胡湯および補中益気湯について，ワーファリンの抗凝固作用に及ぼす影響を検討した。

【方法】SD系雄性ラット（6週齢）にワーファリン水（0.65mg/l）を11日間自由に飲ませた後，葛根湯，小柴胡湯あるいは補中益気湯を強制経口投与した。ペントバルビタール麻酔下に腹部下行大動脈から3.13%クエン酸採血し，ヘマトクリット，プロトロンビン時間，トロンボテスト時間，ヘパプラスチンテスト時間および活性化部分トロンボプラスチン時間を測定した。なお，陽性対照薬にはワーファリンの抗凝固作用を増強することが知られているインドメタシンを用いた。

【結果および考察】ワーファリンの飲水により，ヘマトクリット値に影響はないが，すべての凝固時間が延長した。これらの変化に対して，葛根湯，小柴胡湯および補中益気湯はほとんど影響を与えなかった。一方，インドメタシンはワーファリンによる凝固時間の延長をさらに延長し，また消化管内出血を生じ，ヘマトクリット値を低下させた。

以上のことから，葛根湯，小柴胡湯および補中益気湯はワーファリンとの併用によって臨床上重篤な副作用を生じる可能性は少ないと考えられた。